全酪連会報

2017 APRIL No.619

第68年度(平成29年度)

事業計画

監査室だより/組織と内部統制 1

平成27年度 会員概況調査より2

作品募集のお知らせ

酪農トピックス/第46回中部酪青女酪農発表大会開催 渡辺賢司さん(愛知県)、西出穣さん(石川県)が最優秀賞受賞! (名古屋)ほか

日本酪農見て歩紀/長崎県南島原市 本田牧場





事業計画案

います通常総会に諮ることになっています。 長会議』において報告・協議されました。最終的には7月27日に予定して承認され、3月13日から全国6カ所で開催された『ブロック別会長・組合でいます。3年目となる平成29年度事業計画は、3月7日開催の理事会で本会は、第十次中期事業計画(平成27~29年度)に基づき事業を展開し

以下に、第88年度(平成29年度)事業計画(案)の概要を報告いたします。



基本方針

ることに努める。
本会は平成24年度に策定した「全酪連将来ビジョン」に基づき、酪農後継者や新規就農者が将来の酪農経営に希望の安定した所得の向上、酪農後継者や新規就農者が将来の酪農経営に希望を会は平成24年度に策定した「全酪連将来ビジョン」に基づき、酪農家

点実施施策を設定し、事業を展開していくこととする。え、その実現のために第十次中期事業計画にのっとり、以下の事項について重え、その実現のために第十次中期事業計画にのっとり、以下の事項について重要課題と捉

- .酪農生産環境整備
- 2. 酪農生産現場の生産性の向上
- 3. 酪農生産物の有利販売
- 4. 組織運営の効率化と財務体質の強化
- 5. コンプライアンス経営の推進

II

重点実施施策

1. 酪農生産環境整備

(1)搾乳後継牛の確保

1

- 液の普及を行う。 識を醸成する。また、計画的なホルスタイン種の授精推進及び雌雄選別精保のための計画的な授精等などを啓蒙し、会員、酪農家の後継牛確保の意) 搾乳後継牛を確保するため、各種研修会の場を通じて搾乳後継牛の確
- 理ノウハウ等を蓄積し活用する。継牛の確保を推進し、併せて更なる事業拡大に向けて牧場運営、飼養管の拡充・拡大を行う。また、都府県に設置した若齢預託牧場を活用し、後)全国組織としてのネットワークを活用し、北海道における販売預託事業
- 検討する。
 ③ 後継牛確保の緊急的な措置として、会員と協議の上、輸入牛での対応も

(2)DMS(酪農家経営管理支援)システムによる経営支援

- ① DMSシステムのSaas (ソフトウェアの通信ネットワーク利用方式)① DMSシステムのSaas (ソフトウェアの通信ネットワーク利用方式)
- とともに、酪農経営を取り巻く課題に対して活用を図る。 ② DMSシステムで得られたデータを分析して検証結果の情報発信を行う

(3)酪農家戸数維持の取組み

る制度や補助事業等の情報収集を随時行い、各会員へ情報提供を行う。し、後継者を対象とした研修会を開催する。また、後継者支援に活用でき、後継者への円滑かつ確実な事業承継を支援するため、会員農協と連携

- 場を設ける。

 ダー養成のための研修会や、全国の酪農後継者相互の情報交換、交流の② 全国酪農青年女性会議の活動に対する運営支援を通じ、地域のリー
- 定期的に協議を行う。要なヘルパー事業の継続及び発展に資するため、酪農ヘルパー全国協会と手続等の情報提供を行う。また、新規就農希望者の研修の場としても重の新規就農希望者や経営譲渡希望者に対し、関連団体とも協力し、制度・

4組織強化の取組み

- アドバイザーを派遣し、助言、情報提供等を行う。進する。また、組織再編整備進行中の会員農協については、本会職員及びや問題を把握し、実態に合わせた組織再編整備を会員農協と連携して推① 会員の酪農専門農協としての組織機能強化を図るため、各地域の実情
- ムページを通じて、情報を会員農協及び酪農家に広く提供する。強化に係る事項について情報提供を行う。また、全酪連会報・全酪連ホー② 会員役職員を対象とした研修会を開催し、会員農協組織の経営安定・

5 酪農全国組織としての強化

をする。 方や共通の課題について、専門農協協議会や関係団体と連携し意見交換、協議方や共通の課題について、専門農協協議会や関係団体と連携し意見交換、協議機協法施行後の農協改革等の動向を見据え、専門農協連としての今後の在り 酪農全国組織としての機能の強化、事業運営の効率化を図ると共に、改正

(6)政策の提言

2. 酪農生産現場の生産性向上

⑴生乳の生産効率の向上

言・提案の対応力向上に重点を置いた教育プログラムを実施し、技術普及① 技術顧問体制の充実により、会員・本会職員に対して酪農現場での助

の利用拡大を図る

報提供を積極的に行う。の研修会を充実させ、技術普及に努めるなど、会員農協及び酪農家への情体制の強化を図る。「全酪連酪農セミナー」を有効に活用して地域単位で

図る。と同時に、海外の研究機関との共同研究を行い、製品開発力の向上をと同時に、海外の研究機関との共同研究を行い、製品開発力の向上を)、哺育育成技術の分野などに関する酪農技術研究所の機能強化を図る

2

的な利用を図る。データを活用し、技術に関する的確な助言・提案と国産飼料の一層の効率が一タを活用し、技術に関する的確な助言・提案と国産飼料の一層の効率) 米国の分析機関との業務提携により高度化、迅速化された飼料分析の

3

(2)高品質な生産資材の安定供給

- よって直営製品供給数量の維持・拡大を図る。家のニーズを的確に汲み上げ、これに合致する製品の供給を進めることに① 会員農協と連携した指導購買の一層の拡充を図り、会員農協及び酪農
- め、飼養管理技術の提供に努める。の向上及び供給数量の拡大を行う。また、哺育期の事故率の低減を図るた② カーフトップ供給開始50周年に当たり、子牛代用乳製品の更なる品質
- 量の安定的な確保を図る。視察・買付け及び需給動向を見据えた適切な在庫管理を徹底し、供給数により、安定供給体制の構築を図る。また、会員農協及び酪農家との現地③ 本会子会社の㈱ゼン・トレーディングと一体となった粗飼料事業の推進
- あった製品の供給を通じて供給数量の拡大を図る。図る。また、添加物及び重曹類についても会員農協及び酪農家のニーズに図。自給粗飼料生産の意識が高まる中、本会オリジナル種子の供給拡大を
- 流、給与方法に至るまで会員農協と連携して取り組むことにより国産飼料衙、飼料用米、稲WCS、エコフィード等をTMRセンターや配合飼料の原化による拡売を図る。

- ナーへの参加、現地視察などを積極的に実施する。 生産性向上に寄与するべく、新たな生産資材の開発を進めるため、セミ
- より、工場コストの低減を図る。 施や、直営製品及び受託製品の製造数量の増加による工場稼働率の向上にをともに、全酪連グループ飼料工場との連携の下、効率的な設備投資の実 世界各国の産地情報を的確に捉えながら飼料原料の安定確保に努める

3. 酪農生産物の有利販売

①生乳需給調整機能と再委託事業の再構築

の役割分担を明確化する。つつ、地域ごとの生乳需給の特性に合わせ、当該地域の指定生乳生産者団体との豊収益性の向上を図るため、牛乳・乳製品の生産・流通等の改革を踏まえ

を的確に実施する。 を的確に実施する。 を的確に実施する。

②乳製品の販売強化

①脱脂粉乳、バター等の計画販売

給上発生する乳製品も取扱い、販売活動を進める。め、各先毎に設定した取引を実施する。また、直営工場、関連乳業にて需特定乳製品及び液状乳製品において、需要に応えた販売を推進するた

②チーズ事業の安定

を推し進めることで、チーズの取扱い強化に努める。製造数量の維持・拡大を図る。また、新商品の開発及び既存商品の改良直営工場の安定的な製造数量確保のため、受託先との協調関係を強化し、の販売強化を行うとともに、NB商品の販売数量拡大に努める。併せて、需要に対応した家庭用チーズの販売推進と、特色あるスモークチーズ

③販売体制の構築

分担の見直しにより販売体制の強化を図る。(マーケティング・商品開発・顧客対応・物流管理等の人材確保及び役割)

(3)乳製品工場における品質管理の強化と生産コストの低減

①品質管理体制の強化

予定されているHACCPの完全導入に向けて、適切な対応をとる。させることによって、食品事業者としての責任を果たす。また、制度化が理に対する意識向上を進め、製品の品質管理・衛生管理の水準を一層向上品質リスクマネジメントを的確に行う人材を育成し、職場全員の品質管

②生産コストの低減

取り組む。

東改の一による原材料ロスの削減と、人員配置の適正化による労務費を留の向上による原材料ロスの削減と、人員配置の適正化による労務の関減と、人員配置の適正化による労務費を留の向上による原材料ロスの削減と、人員配置の適正化による労務費を

(4)生体牛の取扱いの強化

- 事業拡大に努める。
 また、肥育牛や経産肥育牛については、食肉関連会社への有利販売を図り取ることにより効率的な集畜体制を構築し肥育農家への安定供給を図る。① 酪農家で生産される初生子牛や肥育素牛については、会員農協と連携を
- ことにより生体牛の供給頭数の拡大に繋げる。のスキルアップを図り、また、購買・畜産事業の連携した体制を構築する② 畜産事業に関する本会職員の人材育成を行うことにより、選畜技術等

(5)酪農理解醸成活動による牛乳乳製品消費定着化

者への酪農に対する理解醸成活動を展開し、牛乳・乳製品消費定着化を図る。酪農青年女性会議及び関係団体と協力・連携して、各地域において一般消費

組織運営の効率化と財務体質の強化

4

①業務の効率化

内部統制機能の強化を目的として、事業活動の透明性、安全性、標準化に

2

提供するとともに、適正な対応を図る。

事業関連法規の制定・改正情報を遅滞なく収集し、

関連部署に

内部統制強化のため、本会及び子会社の管理職、

総務部と連携し、農業協同組合内部監査士の資格取得を推進する。

心に全国農業協同組合中央会が開催する内部監査担当者研修会を受講さ

自主検査のチェック機能向上や内部統制への理解を深めるとともに

⑴コンプライアンス経営の推進

1

年間推進計画に即して、研修・勉強会等により事業関連法規の遵守を

リスク・アセスメントを実施し、コンプライアンス経

推進するとともに、

営の推進を図る。

5

コンプライアンス経営の推進

制の再構築を実施する。 よる業務の有効性・効率性の向上を図る。業務効率改善の施策として、業務体

②本会職員の育成

の適切な人員配置に努める。 実効性のある内容に改善することを通じて職員の育成を図るとともに、 担当部署との協力の下、現場教育及び各種研修の評価・見直しを行い、より 各部門

2

③基幹システム安定稼動

理システムの更新作業を開始する。 ステムの機能強化を継続するとともに、 コンピュータネットワーク障害とサーバ障害への迅速な対応のため、 メーカー保守が終了する購買・販売管 監視シ

(4)財務基盤の強化

り、財務体質の強化に努める。 全酪連グループ内資金と保有資産の効率的活用により自己資本の充実を図

⑤子会社等との連携強化

して取り組み、全酪連グループとしての事業価値を高める。 全酪連グループ内における本会と子会社の事業効率化に向け、 各社と協働

(1) 年度別売上高

総務企画担当者を中

		(単位:白万円)
年度部門	平成28年度 見込	平成29年度計画
酪農事業	9,793	9,717
購買事業	69,961	69,283
合計	79,754	79,000

G-01/27447177

(2) 年度別経常村	(単位:百万円)	
年度	平成28年度 見込	平成29年度 計画
経常利益	1,205	611

- 1 処置の有効性確認及び再発する指摘事項に対して、 体的な取り組みで対策を講じ、実効性の高い品質監査の実施に努める。 全酪連の品質方針に基づき、 担当部署及び工場と
- りを推進する。 連携して進め、 (GMP)のガイドラインに沿った飼料工場GMPの確実な運用のために関 、移行するにあたり必要な手順の支援を行うほか、 また、ISO9001取得工場が、2008年度版から2015年度版 乳製品の食品衛生管理の国際標準化に対応する仕組み作 飼料等の適正製造規範

(3)情報セキュリティ対策の強化

係部署との協議、監査を行う。

キュリティに対する意識向上を図る。 新入職員研修やeラーニング等による情報セキュリティ教育を実施し、 PCのWindows10への移行と管理機能強化を図るとともに、 継続して 情報セ

2品質保証システムの継続的改善

- 内外の品質監査の指摘事項に対する是正
- 乳製品工場のHACCP制度化に向けた情報収集及び協議を関係部署と

増加傾向 コンプライアンス倒産の

傾向にあります。 その結果、コンプライアンス違反倒産は増加 近年、数々の企業不祥事発生が後を絶たず、

コンプライアンス違反倒産は289件。 帝国データバンクによると2015年度の

- 前年度比3割増で過去最多を更新
- 2009年から7年連続で増加
- 違反類型では「粉飾」が85件で最多
- となっています。 資金流出や詐欺などの は67件判明し前年度から4倍に大幅増加 「資金使途不正」

その実効性が問われています。 が脚光を浴び組織や企業の内部統制の構築と (企業統治)、コンプライアンス (法令遵守) そして繰り返しコーポレートガバナンス

2 企業の不祥事が相変わらず

明るみに出るわけ

では、なぜこのように不祥事が後を絶たな

いで明るみにでるのでしょうか?

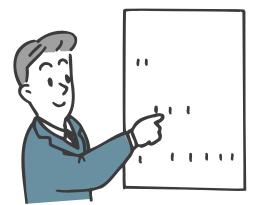
主な原因としては以下のことが考えられます。

- インターネットでの掲示板への書き込み や公的機関、マスコミへの通報、 がしやすくなっている。 リーク
- 人員削減、労働環境の悪化。
- 景気回復傾向と言われる中、 での実感なし 手取り給料
- 利益確保のためコスト削減へ邁進
- 品質への配慮欠落、 退と甘さ拡大 品質管理への意識減
- 売上第一主義また、業績一辺倒の考え方
- 終身雇用の崩壊、 組織に対する忠誠心希

薄化

• 業務上の不手際が部門や個人の業績に直 結するので、現場でのミス隠ぺい

などです。 マイナス情報をトップへ上げない



3

企業不祥事が繰り返されるわけ

経営においては 企業不祥事が繰り返される中で日本の企業

- 経営者への監督が充分に機能していない
- 利害関係者との調整を図る仕組みが不備
- 会社の業務や財務におけるリスクを統制 する社内態勢が十分には構築されていな

います。 きていない組織が多いことが原因だとされて ないと感じつつも、その対策が十分に実行で 点が指摘はされています。やらなくては した。しかし、大会社や公的機関でも右記の という事が今までも一般的に指摘されてきま

が求められています。 るためにも内部統制のシステムづくりの構築 ぐため、さらには財務諸表の信頼性を確保す においては、 ですから、これらの対策が十分でない組 リスク回避、 不祥事を未然に防 織

とされています。 取締る役目の経営者としての責任

チェックする義務があるとされていました る以前からも、 会社法で内部統 取締役同士で互いの仕事の統制の構築が義務付けられ

> て統制していく必要が出てきます 今後はさらに厳しく、 内部をチェックし

いきます。 監視できる体制作りを行うことが求められて のようなシステムがうまく回っているのかを て自分で修正していく能力を上げていく。 事のシステムや、 を徹底させ、ミスや不具合が出にくくする仕 特に、 経営者が従業員に対して、 ミスや間違いを早く見つけ 法令遵守 そ

4

内部統制って、何? いろいろ言われてい る

告書) リカのトレッドウェイ委員会支援組織委員会 ある「内部統制の統合的枠組み」(COSO報 (COSO) が1992年に公表した報告書で りましたが、理論化し始められたのはアメ そもそも「内部統制」という言葉は昔から です。

あ

ス・オスレー法) 2002年のアメリカのSOX法 ようになったのは2006年6月に投資家保 護を目的で導入された金融商品取引法 SOX法)です。 日 本で「内部統制」 で、 その この法律ができるきっ がにわかに注目される もとになったのが (サーベン (日本

版

件と2002年のワールドコム事件です。 かけになったのが、 2001年のエンロ 事

ものずばりの言葉はありませんが、 るとされています。 362条の4項6号が「内部統制」 日本の会社法では「内部統制」というその を意味す 会社法

を受けるに当たり農協でもにわかに注目され 話と思っていたら、 はそもそも内部統制って、なんなのか? るようになった言葉が「内部統制」です。 監査機構が会計監査法人化され監査法人監査 方で、株式会社や上場会社に限定される 農協法が改正されて全中 で

か。 態を掴みきれないのが実情ではないでしょう 漠然とイメージはするものの、 なかなか実

営していくための仕組み・手法ともいえます。 りません。 とは述べられていますが、 て注目されています。 活動を行うために、 それもそのはず、 大まかに言うと、 必要不可欠な仕組みとし 内部統制は、 COSOで一 具体的な定義はあ 組織を健全に経 組織の 般的なこ 事業

(次回⑫に続く)

本会では、会員酪農協における組織・事業の概要を把握する ことにより、事業運営における問題点を明確にし、その改善を図 り、体質強化に資することを目的として会員概況調査を実施し ております。

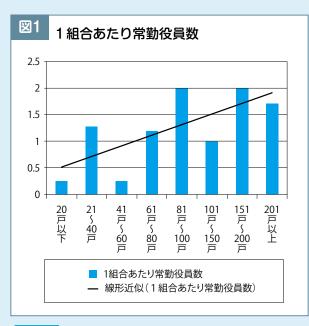
3月号に引き続き、調査内容をご報告します。

なお、データは各会員より提出頂いた「会員概況調査票」の 数値を使用し集計を行っています。

酪単協における常勤役員、役職員の状況

表1 常勤役員の在籍状況

項目	集計	常勤役員のいる組合		1組合あたり	火 郊 山井三紫	犯 聯 星	役 職 員 1人あたりの
規模	組合数①	組合数②	比率2/①	常勤役員数	生乳出荷戸数	役 職 員	酪農家戸数
20戸以下	20	6	30%	0.3	216	287	0.8
21~40戸	14	12	86%	1.3	442	599	0.7
41戸~60戸	4	1	25%	0.3	216	70	3.1
61戸~80戸	~ 80 戸 5		80%	1.2	349	147	2.4
81戸~100戸	4	4	100%	2.0	362	256	1.4
101戸~150戸	6	4	67%	1.0	756	267	2.8
151戸~200戸	2	2	100%	2.0	336	108	3.1
201戸以上	7 7 7		100%	1.7	1,759	566	3.1
全体	62	40	65%	1.0	4,436	2,300	1.9





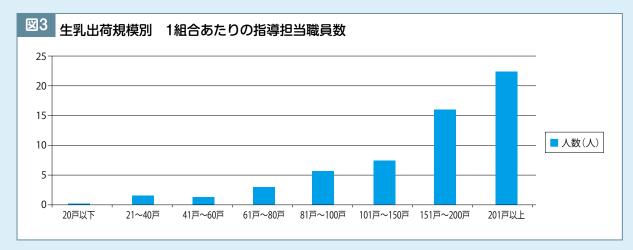
解 説 表1及び図1、2は、生乳出荷戸数別に見た1組合あたりの常勤役員数及び役職員1人あたり の酪農家戸数を示した(調査表提出・記入のあった62組合にて集計)。

生乳出荷戸数別で数値のバラつきはあるものの、概ね規模に比例して人数が増加しているが、出荷戸 数20戸以下の酪単協は全体の3割以上を占め、常勤役員人数も1名を切っているため、全規模で見た1組 合あたり常勤役員は1名という結果となった。

酪単協における指導担当職員数

表2 酪単協における指導担当職員数

現 目 規 模	集計組合数	人 数	1組合あたり指導職員数	
20戸以下	20	2	0.1	
21~40戸	14	21	1.5	
41戸~60戸	4	5	1.3	
61戸~80戸	5	15	3	
81戸~ 100戸	4	23	5.8	
101戸~ 150戸	6	45	7.5	
151戸~ 200戸	2	32	16	
201戸以上	7	157	22.4	
全体	全体 62		4.8	



「解■説』表2及び図3は酪単協の1組合あたりの指導担当職員の在籍状況を生乳出荷規模別で示した (調査表記入提出・記入のあった62組合にて集計)。

飼養規模が大きくなるとになると1組合員あたり指導担当職員数はほぼ100%となるが、小〜中規模 の組合は在籍していない所もある事が分かる。指導担当職員数は組合規模におおよそ比例して増加する ことが示された。



常勤役員、指導担当職員の調査結果を見ると、特に小規模組合においてその在籍する 割合、人数は少なくなっており、組合運営、執行体制や生産者への営農指導や指導体制の 弱体化が懸念される内容であった。生産基盤弱体化の進行が危惧される中、これ以上の 生産者戸数の減少を防ぐ為にも、組合の運営及び指導体制の強化は重要な課題であり、 今後組織整備、再編を含めた組織の強化を進めていくことが必要であると思われる。



この度、調査にご協力いただいた会員・関係者の皆様にこの場を借りて感謝申し上げ ます。会員概況調査においては、会員の皆様から提出される調査票が多いほど、より正確 なデータが解析できます。全国の本会会員の動向を定期的に報告させていただくために も、今後とも本調査へのご協力をお願いいたします。



▲ 左から妻(純子さん)、母親(千代子さん)、ベトナム人研修生(ランさん)、長女(ののかさん)、祥大さん

▲ 牛舎全景

地域の紹介

南東、 通しの良い丘の上に構えられた牛舎 からは島原湾や対岸の天草 今回紹介する本田牧場は長崎県の 南島原市に位置しており、 (熊本 風

の栽培も盛んです。

この土地ではメロンや葉タバコなど 火山として知られる普賢岳と生きる 県)を一望することが出来ます。

活

度)です。 33,963 t (平成27年度) であ 理事組合長) 県酪農業協同組合 本田牧場の所属する、 酪農家戸数は93戸 は、 年間生乳生産量 (中村隆馬代表 (平成28年 ながさき

牧場の概況

ど、後継牛確保にも力を入れていま は 日量 30 kg、 を飼養しており、 育成牛40頭、 ついては、雌雄判別精液を用いるな 超える成績を残しています。繁殖に 本田牧場は、 他1頭の計101 年間 9, 経産牛60頭、 搾乳牛の平均乳量 0 0 0 子牛 kg を 頭

長崎県南島原市

です。 さん、 さん、千代子(母親) さん、純子 (妻) 現在の家族構成は、ご主人の祥大 ののか(長女)さんの4名

餌やりと作業全般、 担当しています。 さんが牛舎掃除と糞かき、搾乳を んが仔牛の哺乳と搾乳を妻の純子 作業分担はご主人の祥大さんが 母の千代子さ

牧場の歴史

います。 時は、 愛知県からの搾乳素牛導入も行って た。また最近では自家育成と併せて、 頭規模の牧場とすることができまし ながら経営を続け、現在は 100 の後自家育成で徐々に頭数を増やし まりました。 まれる少し前、 本田牧場はご主人の祥大さんが生 総頭数8頭ほどでしたが、そ 昭和53年の牛舎新築当 4頭の手搾りから始

経営の特徴

飼料供給を行うためです。 左右される経営ではなく、安定した 入しています。収穫量や労働時間に 本田牧場では、 自給飼料は作らず、すべてを購 近くの野菜農家に堆肥として無 作業効率の観点か 糞尿処理

> 使用しています。 らノコクズを入手し、石灰と混ぜて ており、移動による作業の手間を省 などの施設が1か所に集中して建っ 償提供し、敷料は木材加工店などか く造りとなっています。 また、自宅や牛舎

努めています を考慮した清潔感ある牛舎の維持に させないために、 なく乳質にもこだわり、乳質を低下 を導入し、自ら胎児の確認などを に配慮した送風機の設置や、 行っています。そして乳量だけでは 繁殖にはこだわりがあり、 カウコンフォート 衛生面 エコー



▲ 自前のエコー獣医さんや受精師さんに使ってもらっています。



経営のポイント

2

できます。 見るこが出来ない設備が見ることが 本田牧場には他の牧場ではあまり

用途に合わせた、組み換えを行う したが、着脱可能な台車を特注し、 して、作られた特注のトラックで 堆肥運搬や、 もともとは普通のトラックで 牛の移動を目的と

> ます。 注のローダーバケットなどもあり も、育成牛舎の牛床に合わせた特 来るようになりました。この他に 導入で、 ことが出来ます。このトラックの 1台で効率的な作業が出



▲ 特注のトラック

けずに観察できるようになりまし 率を上げることができるだけでな 来るようになり繁殖管理などの効 からでもスマートフォンで観察出 たが、このカメラの導入で、自宅 ラです。以前は分娩時や発情発見 た。現在このカメラは育成・搾乳 のため夜中に見回りをしていまし 牛舎内に設置された IP ヒト・牛双方にストレスをか ーカメ

牛舎の両方に設置されています。



牛舎内IPカメラ

の台に乗せて呼吸が困難になって います。 いる仔牛のケアを行って仔牛とヒ 仔牛の飲んだ羊水等を吸引器で吸 トの双方の負担軽減につながって い出しますが、この際、 仔牛用の器具です。 分娩直後に 仔牛をこ

4

最後に紹介するのが、

本田牧場 本田牧

▲ 仔牛のために考えた自作の台

されています。 牛に負荷の少ないように解決する 牛のつなぎ方に工夫がな

きが制限されるため、 で紐の長さが固定され、 すが、ここの繋留方法にすること やすいというデメリットがありま 上下左右に動けるため、盗食され 調節が可能で、チェーン1本だと たものです。チェーンより長さの ロープを作り、つなぎの素材とし 写真は祥大さんが自ら編んで 盗食を防止 左右の動

することが可能です。上下の動き かすことが出来るため、ウシへの 作られており、その範囲で体を動 に対しては横に鉄の棒で可動域が 負担を軽減することが出来ます。

酪農へのこだわり

様が体調を崩された中学校1年生の 思った情報は、誰にでも教えるとい ときから、酪農に励んでこられた祥 きにいらっしゃっていました。お父 祥大さんの酪農の勉強のため話を聞 材に伺った日も、別の酪農家の方が うことを心がけているそうです。取 日々もありました。自分が大変な時 はどうすれば良いのかなどを悩む でした。自分の牧場に合う牛の改良 の魅力を見出していくかということ 大さん。その過程で考え至ったこと 大さんは今日も酪農家の模範として 祥大さんは自らの経験上、良いと 酪農はいかに人と支え合い、 他の仲間のために行動する。祥 人

活動されています。

最後に

がある祥大さん。娘さんが跡を継 でくれるならば是非との考えがある 搾乳ロボットの導入に興味

ど、つなぎ牛舎によくある問題を

事故を防ぐことや、

盗食の防止な

場ではつなぎ牛舎の体系を取って

います。チェーンの絡まりによる

の繋留方法についてです。

業界に望んでいるそうです。 増えていくような取組を今後の酪農 とのことです。また、新規就農者が

スしているのが伝わってきます。こう を見ることが出来るほど牛がリラック めて、牛が眠っているところを見まし 材させていただいたときに、私は初 をしています。」との回答でした。 めに安心安全な牛乳を生産する努力 す。消費者に喜んで飲んでもらうた 食を担っているやりがいのある仕事で を聞いてみたところ「酪農は日本の にも見てもらいたいなと思いました。 いった光景を多くの酪農を知らない人 全国の酪農家さんに伝えたいこと これからの酪農業の益々の発展と 人間が近くにいるときにでも寝顔

ます。 本田牧場のさらなるご活躍を祈ってい



名古屋 支所発

第46回中部酪青女酪農発表大会開催 渡辺賢司さん(愛知県)、西出穣さん(石川県)が最優秀賞受賞!

3月16日休~17日金に中部酪農青年女性会議 (小笠原和美委員長) 主催の「第46回中部酪農青年 女性酪農発表大会」が、石川県加賀市「ゆのくに天 祥」で約100名の酪友、関係者が参加して盛大に開 催されました。

大会は堀山副委員長による開会宣言と、参加者全員 での統一綱領唱和で幕を開けました。

小笠原委員長の主催者挨拶に続いて、来賓の農林水 産省北陸農政局·木内岳志次長、石川県酪農業協同組 合・林友次代表理事組合長から挨拶がありました。

経営発表の部は、渡辺賢司さん(愛知県)が『若者 目線で経営改善』と題して経営の成果を発表し、最優 秀賞に選出されました。

意見・体験発表の部では、西出穣さん(石川県)と 中垣奈月さん(三重県)より、それぞれ『私の酪農家 への道』、『これが私の進む道』と題した発表が行われ ました。

審査は各県会議より推薦された酪農家 15名の審査 員によって行なわれ、西出穣さんが最優秀賞に選出さ れました。

また、発表大会の合間には、昨年夏の全国発表大会 に出場し11月9日(水)~15日(火)に「ロイヤルウィン ターフェア視察と米国・カナダ酪農視察研修7日間| ツアーに参加された森富士樹さん、石川栄子さんより 視察研修報告も行われました。

大会終了後の懇親会では、「石川県ご当地クイズ」、 「お楽しみ抽選会」のあと、「牛の着ぐるみ大集合&恋 ダンス | では参加者全員で恋ダンスを踊り、酪友相互 の親睦を深めました。

最優秀賞を受賞された渡辺さん、西出さんは7月13 日休~ 14日金に北海道札幌市で開催される全国酪農 青年女性会議主催の「第46回全国酪農青年女性酪農 発表大会して出場されます。



▲ 開会式



▲ 発表者のみなさん。右から渡辺さん、西出さん、中垣さん。



▲ 懇親会風景



▲ 発表風景

支所発

大阪「デイリーフォーラム2017 in Hyogo」 が開催される

去る2月20日(月)、兵庫県酪農農業協同組合(丸尾 建城代表理事組合長)は、シーサイドホテル舞子ビラ 神戸において、組合員及び関係者も含めて65名の参 加のもと『デイリーフォーラムin Hyogo』を開催し ました。

今年は、愛知県のあ かばね動物クリニック 鈴木先生を講師に招 き、「繁殖改善に向け た飼養技術、管理手 法」と題して講演会が 行われました。

参加者は、熱心に聴



▲ 講演される鈴木先生

講され、その後の質疑応答では時間が足りないほどと なりました。

北海道初妊牛が高騰する中、後継牛確保が喫緊の課 題となり、もう一度繁殖について見直すいい機会に なったのではないかと思います。

兵庫県酪農協は4月で設立されてちょうど1年とな りますが、これからもまだまだ酪農経営にとってプラ スとなる企画を行い、酪農家や関係者に提供していく とのことです。兵庫県の酪農家にとって兵庫県酪農協 はなくてならない組織となりつつあるようです。(K.1)



▲ 講演会風景

第15回「酪農語る多会」が開催される

去る2月22日(水)、山口県酪農青年女性会議(松永 毅委員長)は、山口農林事務所畜産部会議室におい て、恒例行事となっています『第15回(平成28年 度)「酪農語る多会|」を開催しました。

今年は、会員17名、山口県立農業大学校酪農経 営コースの学生12名、および関係者と合わせて総 勢45名の参加となりました。松永委員長の挨拶のの ち、午前中は研修会、午後は会の名前のとおり参加者 が自由に語り合う2部構成で行われました。

午前の部の研修会は、「チームワーク」をテーマと



▲ いろんなことを話しました

しグループワークが行われ、新聞紙のタワーを決めら れた時間内にできるだけ高く作るというゲームに挑戦 しました。「共通の目標に対し協力し合って進める大 切さを学び有意義だった。」など参加者からの感想が その後発表されました。また、昼食の後は、参加者同 士で近況や今悩んでいることなど自由にいろんなこと を話しました。

日々忙しいなか、楽しく有意義な1日を過ごし、 参加者それぞれ何かを掴んで持ち帰られたことと思 います。 (K.I)



▲ 1番高いタワーを作るのはどのチ

福 岡 支所発

熊本県「第42回 酪農女性の集い」 開催される!

平成29年2月22日(水)、熊本県立劇場(熊本県熊本市)において、熊本県酪農女性部協議会(稲田仁美会長)、熊本県酪農業協同組合連合会(隈部洋代表理事会長)主催の「第42回 酪農女性の集い」が開催されました。この集いは、酪農家と一般消費者との繋がりを作り、酪農を身近に感じていただくことを目的としており、総勢715名が出席しました。

午前中は、山内要氏による講演があり、昨年4月の熊本地震をうけ、「物の備えより心の支え」と題して、実際の現場で体験したことをもとに、危機に直面した際の考え方や行動について話がありました。とても現実感のある話と山内講師のトークに会場が圧倒されました。

午後からは県内酪農家による地域別アトラクションが行われ、地震の影響を感じさせないハイクオリティなアトラクションに、会場は盛り上がりを見せていました。県内産乳製品を一般消費者の方にプレゼントするお楽しみ抽選会なども開催され、酪農家と一般消費者との結束深まる素晴らしい催しとなりました。(U.T)



▲ 山内要講師

◀ 会場風景



▲ アトラクション風景

福 岡 支所発

「第60回 佐賀県酪農婦人の集い」 開催される!

平成29年2月24日(金)、佐賀県酪農婦人部連絡協議会(原口眞理子会長)、JAグループ佐賀畜産振興協議会(中野吉實会長)主催の「第60回 佐賀県酪農婦人の集い」が、佐賀市「ホテルマリターレ創世佐賀」において、約75名の酪農婦人及び関係者が集まりました。

生産力向上に取り組み、地域とともに歩む佐賀酪農を次世代につなげていこうというこの大会のスローガンに則り、第53回乳質改善共励会表彰、生乳需要期増産表彰、牛群高能力表彰第28回牧場花いっぱい美

化コンクールの表彰式が 行われました。

続いて行われた意見・体験発表では、「あれから41年そして、これからあと何年?」と題して 武雄市の古川美恵子さんが発表されました。最後 に、佐賀県酪農婦人部連絡協議会 原口眞理子会長に より「婦人の集い宣言」が読み上げられ、会場から大 きな拍手をもって採択されました。

午後からは、婦人部会員によるカラオケ大会が行われました。佐賀県女性の力強い歌に会場は盛り上がりを見せました。他にも宮原鉄哉のものまねショーや多久ちんどん芸能隊による座興があり、佐賀県酪農婦人の結束を高める集いとなりました。 (U.T)



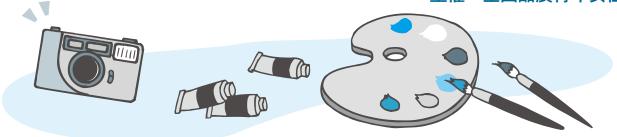
▲ 交流会風景



▲ 原口眞理子会長

作品募集のお知ら世

主催:全国酪農青年女性会議



44 らくのうこどもギャラリー

1 募集規定

- (1)酪農を中心とした題材の図画(大きさは自由)
- (2)自作で未発表のものに限ります。
- (3)作品には、題名・住所・氏名・振り仮名・年齢・学校名・学年・保護者名を必ず記載してください。 また、酪農家の子弟については保護者の所属組合名を記載してください。
- (4)作品返却を希望される方は応募時に返却希望の旨を申し出てください。

2 応募資格

4歳から中学生までの酪農家の子弟、および酪農に関心のある一般のお子さん。

3締切日

平成29年5月26日(金)(当日消印有効)

4 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性会議事務局宛に提出してください。

5 審査結果の発表

「第46回全国酪農青年女性酪農発表大会」の発表要旨、および全酪連会報7月号に審査結果を掲載いたします。

6 褒 賞

- •特選 1点
- 。入選 4点以内
- 。秀 作 若干
- ファミリー賞 若干 (牛とのふれあいなど、ほのぼのとした雰囲気を 持つ作品に贈られます)
- あすなろ賞 若干 (小学校入学以前の方の優秀作品に贈られます)



第43回特選「お母さんの牛乳 最高!」 岩谷 龍さん

- ◎特選に選ばれた方は、保護者(1名)同伴で「第46回全国酪農青年女性酪農発表大会」に招待します。
- ◎入賞者には記念品を贈呈いたします。
- ◎図画の優秀作品は、作者の顔写真・審査講評と共に「全酪連会報Ⅰの最終ページに掲載します。

「らくのうこどもギャラリー」、「酪農いきいきフォトコンテスト」の提出先はこちら

●北海道酪農青年女性会議

〒 060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1 酪農センター5階 全酪連札幌支所内 TEL 011-241-0765

●東北酪農青年女性会議

〒980-0021 仙台市青葉区中央1-7-20 東邦ビル3階 全酪連仙台支所内 TEL 022-221-5381

■関東甲信越酪農青年女性会議

〒108-0014 東京都港区芝4-17-5 相鉄田町ビル5階 全酪連東京支所内 TEL 03-5931-8011

●中部酪農青年女性会議

〒 460-0008 名古屋市中区栄 1-16-6 名古屋三蔵ビル3階 全酪連名古屋支所内 TEL 052-209-5611

●西日本酪農青年女性会議

〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-14-10 新大阪トヨタビル6階 全酪連大阪支所内 TEL 06-6305-4196

●九州酪農青年女性会議

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-2-15 事務機ビル7階 全酪連福岡支所内 TEL 092-431-8111

❷ 酪農いきいきフォトコンテスト

全国酪農青年女性会議では、酪農家の生活や牛乳の生産現場をより鮮明に消費者に伝えていくことを目的に、「酪農いきいきフォトコンテスト」を実施します。

つきましては、下記のとおり作品を募集しますので、ふるってご応募いただきますようお願いいたします。

1 テーマ

- ①「乳牛のいる風景」
- ②「酪農作業風景|

※いずれも、酪農家がいきいきと牛乳生産に励む様子や、安心安全な牛乳生産のため懸命に仕事に取り組む姿勢が感じられるようなもの。

2 募集規定

- (1)写真は可能な限りデータで提出してください。
- (2)自作で未発表のものに限ります。
- (3)作品には、題名・氏名・振り仮名・住所・所属組合名を必ず記載してください。
- 3 応募資格 酪農家
- 4 締切日 平成29年5月26日(金)(当日消印有効)
- 5 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄の酪農青年女性会議事務局宛に提出してください。

6 審査方法

応募作品を「第46回全国酪農青年女性酪農発表大会」の会場内に掲載し、 大会参加者の投票による審査を行います。(応募多数の場合は事務局による 予備審査を行います。)

7 審査結果の発表

- ①「第46回全国酪農青年女性酪農発表大会」2日目に 投票結果として掲示します。
- ②「全酪連会報」の表紙に使用します。(号数未定)

8 褒 章

- 特選1点(2テーマの中で特別に投票数の多かった作品)
- 入選 若干数 (特選を除いて投票数の多かった作品数点)
- ◎入賞者には賞品を贈呈いたします。
- ◎提出していただいた作品の返却はいたしません。
- ◎応募していただいた作品は、全酪連会報およびカレンダーへの掲載を含め、今後各地での牛乳消費拡大活動(「父の日に牛乳を贈ろう!」キャンペーン含む)等で使用することがありますのでご了承ください。



第7回最優秀賞 「ぺろーん!いただきまーす♡」 吉田 尚子さん

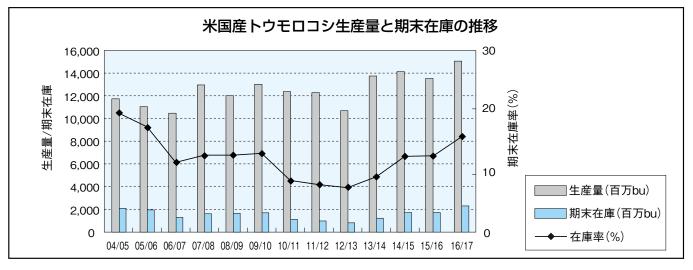


全酪連2017年の

4月3日(月)、全酪連本所 相鉄田町 ビル(東京都港区)において平成29 年度新入職員入会式が行われ、今年度 は、大学・大学院卒業が13名、高校 卒業が2名入会しました。これから よろしくお願いいたします。



3月10日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	【15/16年産】 作付面積88.0百万エーカー、単収168.4bu/エーカー、生産量136億200万bu、総需要量136億6,400万bu、期末在庫17億3,700万bu、在庫率12.7% 需給両面で増減なし。			
	【16/17年産】 作付面積94.0百万エーカー、単収174.6bu/エーカー、生産量151億4,800万bu、総需要量146億2,000万bu、期末在庫23億2,000万bu、在庫率15.9% 需給両面で増減なし。			
トウモロコシ相場動向	南米産トウモロコシは事前予想を上回る結果であり、特にブラジルは過去最高の生産量見通しとなった。米国の 需給については、エタノール需要増、飼料需要減、となり差し引き需要全体は変わらず、期末在庫としても前月比 変化は無し。輸出需要については前月比横ばいではあったが、引続き輸出需要が順調なことから今後増加する可 能性も十分考えられるので動向には注意。			
3月10日発表 米国農務省 大豆需給予想	【16/17年産】 作付面積83.4百万エーカー、単収52.1bu/エーカー、生産量43億700万bu、総需要量40億93万bu、期末在庫4億3,500万bu、在庫率10.6% 需給面で減少し、期末在庫は増加。			
大豆粕相場動向	米国産は、需要面が下方修正され、期末在庫は前月から15百万 bu 増加の435百万 Bu となった。国内産の搾油量は前年並み。原料の大豆に関してシカゴ相場が南米天候懸念の影響で高騰していたことを受け前期対比値上げで推移している。輸入品は中国産が中心となり、国内大豆粕需給が緩和している影響から一時的に相場は弱含んでいたが、投機筋の介入により前期対比値上げで推移している。			
糟糠類	【一般フスマ】引続き季節的な面から製粉メーカーの挽砕は低調に推移。発生量は減少。前期価格改定の影響(他糟糠類原料が値上げ)フスマの配合割合は増加。需給は引き締まっている。相場は横ばいからやや強含むものと予想。			
	【グルテンフィード】国内スターチメーカーでは夏場のスターチ、異性化糖需要に向けて徐々に稼働が上がり発生量の増加が予想。輸入に関しては年末、割高感から減少するとみられていた中国産が予想以上に輸入された模様。需給面ではDDGSへの置換、今期の値上げの影響で配合割合は減少傾向。相場は軟化することがことが予想。			
海上運賃	パナマックス型市況は上昇基調となった。引続き、穀物、石炭中心に引合いが散見され、強地合いの展開。北米西岸積み穀物の滞船悪化と安定的な石炭の引合いが好感され、先物相場は上昇基調に転じており、強材料が台頭していることから船主筋が強気になってきている。			







輸入粗飼料の情勢 平成29年3月

海上運賃一斉値上げ(GRI)については、先月と同様、3月1日付けでの値上げは大半が直前で回避になりましたが、一部実施を強行する船社も出てきています。各船社の経営状況は欧州航路の不採算が解消されてきているものの、未だ赤字の航路が多く、値上げの圧力は続いていきそうです。すでに4月1日付のGRIの通知を出している船社もあり、引き続き各船社の動向が注目されます。		
【米国産】先月記載した通り、ペレットの生産量の下方修正は続いています。現段階では前年比で10%以上の減少が見込まれています。このため米国産の供給余力は弱まっており、今後の日本市場への影響も懸念され始めています。		
カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは2月上旬から新穀の収穫が始まっていますが、この時期に収穫された多くの玉は、水分が高い傾向にあることから輸出向けには適さないため、ほとんどが米国内向けになると思われます。インペリアルバレーの2月15日時点の作付面積は、前年対比98%の138,397エーカーとなっています。わずかに減少していますが、他の作物と比較すると作付面積は維持できており、背景には中国、中東から引き続き強い引き合いがあります。さらには、中東の資本が続々と産地に投資をしており、圃場の取得や倉庫の建設など、過去にはない動きが始まっています。ワシントン州ではこの冬、度々大雪に見舞われ、産地から港までの主要道路の通行止めや、本船スケジュールの遅延が断続的に発生しており、アルファルファやチモシーなどの物流の混乱が続いています。また、雪解けによる大量の水が倉庫に浸水し、在庫品にダメージが発生しているところもあるようで、端境期に向け、成約済みの数量に欠減が発生する可能性も出てきました。		
【米国産】2016年産の現地在庫はほぼ完売(成約済)となっています。産地価格については、年明け以降、値上げが続いており中級品以下もその対象になってきています。 新穀の作付けについては、昨年の1番刈収穫後、ジャガイモや豆類など他の作物に転作した畑が秋の天候不順により収穫が遅れたため、秋播きのチモシーの播種が遅れ気味の圃場が多くあるようです。一方、作付面積自体は主産地ワシントン州だけではなくアイダホ州でも増加している模様です。17年産の産地相場は、作付は増えているものの16年産在庫の不足感が非常に強いこともあり、作柄次第とはいえ16年産に比べ上昇するとの予想が大勢を占めています。		
【カナダ産】カナダ産についても、2016年の現地在庫はほぼ完売(成約済)となっています。 主産地レスブリッジでは1番刈、2番刈ともに肉牛向けを中心とした堅調な国内需要や中国向け需要に支えられ、 在庫はほぼ完売のようです。		
主産地インペリアルバレーでは、デュラム小麦の相場が低迷しているため、早播きのスーダンの作付は増加する環境にありますが、現時点での作付面積の動向については、各サプライヤーで見解が分かれているところです。16年産の繰り越し在庫はほぼ無い状況で、上級品は需要に対してやや不足の状態で17年産を迎えるため、新穀スタート時の産地相場は16年産に比べ上昇すると予想されています。		
クレインは全略連の登録商標です。年明け後の韓国からの需要は、自給飼料不足により引き続き活発で、16年産の繰り越し在庫は非常に少ない状況です。また、昨年からの産地相場の低迷の影響で作付面積は2月の時点で前年比14%の減少となっています。韓国の堅調な需要が継続しているうえ、繰り越し在庫も少なく、作付面積も減少していることから、17年産の産地価格の上昇は避けられないとの見方が強くなっています。		
引き続き韓国の国産ワラ不足による需要増、過去の相場低迷からの挽回を目論む生産農家の動きにより、産地相場は大幅に上昇しています。現行相場で玉が動き続けると17年産もその流れから高値スタートの可能性あり、今後の在庫状況も含めて注意が必要です。サプライヤーによっては端境期までの在庫の確保がままならないところもあり、今後の供給は非常にタイトになってくることが予想されます。		
【豪州産】西豪州では1月に激しい降雨があり、一部で大きな被害をもたらしています。特に収穫直後であったウィートストローは、各サプライヤーや生産農家の倉庫が、今年収穫量の多かったオーツへイで埋まっており、一部のウィートストローが倉庫搬入前に雨を受けてしまったようです。このため、当初の見込みよりもウィートストローの良品は限定的となり、不足傾向の米国産ストローの代替としての期待も出来ない状況になっています。		

INFORMATION



乳牛產地情報

平成 29 年 4 月 1 日現在

価格状況 ★……強含み 承……やや強含み ➡……横這い ★……やや弱含み ↓……弱含み

札 幌 支 所 TEL 011-241-0765 釧路事務所 TEL 0154-52-1232 帯広事務所 TEL 0155-37-6051 道北事務所 TEL 01654-2-2368

事務所	畜 種	相場(万円)	価格状況	管 内 状 況
	育成牛(10-12月令)	50~60	*	札幌管内の3月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計90.9%、累計で94.8%、苫小牧管内月計で95.3%、累計で96.3%の実績となっております。
	初 妊 牛	90~95	7	4月の初妊牛動向といたしまして、6月~7月分娩のF1腹を中心に取引されます。全道各地で初妊牛が値がりの動きを見せており、この管内も上昇することが予測されます。また育成牛も同様の動きを見せてお
	経 産 牛	50~55	•	育成農家を中心に購買が増えつつあります。出回り頭数は少ない地域ではありますが、優良牛や高能力牛の多い地域でもありますので、オーダーがありましたらお早めにご連絡いただきますようお願いいたします。
Aut=5-5-1	育成牛(10-12月令)	55~65	→	根釧管内の3月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で97.1%、累計で99.7%、中標津管内月計で99.2%、累計で100.0%の実績となっております。
	初 妊 牛	85~105	7	4月の初妊牛動向といたしまして、6月~7月分娩の牛が中心で取引されます。2月はやや弱めの展開となった管内乳牛市場ですが、3月にはメガ・ギガファームの導入が活発化した事により再び上昇に転じました。釧
	経 産 牛	55~65	•	路市場:905千円(前回比+63千円)、根室市場:920千円(前回比+29千円)と価格が上昇しました。今後も道内外において牛舎建設、規模拡大が続く事から相場は強含みで動くものと思われます。
	育成牛(10-12月令)	55~65	•	帯広管内の3月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で97.7%、累計で100.6%の実績となっております。 4月の初妊牛動向といたしまして、6月~7月分娩のF1腹が中心で取引されます。管内の乳牛市場では昨年12
帯広管内	初 妊 牛	95~105	1	月~2月まではやや弱含みでの推移を続けていましたが、3月の2度の開催で初妊牛相場はそれぞれ938千円、 1,003千円と急激な上昇を見せております。これは道内外問わずメガ・ギガファームの導入が活発化していること
	経 産 牛	55~65	•	が要因と考えられます。新年度に入り新たな導入事業やクラスター事業により相場は高値を維持するものと思われます。
	育成牛(10-12月令)	55~65	7	道北管内の3月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で99.4%、累計では100.6%で、北見管内では月計で98.7%、累計で99.2%の実績となっております。
道北管内	初 妊 牛	90~100	7	4月の初妊牛動向といたしまして、6~7月分娩中心となります。F1腹、雌雄選別腹の需要が高まっており、 高値で推移すると思われます。新年度に入りクラスター事業による大型牧場のロボット導入の話も道内各地
	経 産 牛	55~70	•	より聞かれ、都府県の大型牧場の需要も増加傾向にあり相場は強含みで推移すると思われます。道内の農協によっては導入事業を活発化させており、販売する初妊牛頭数が減少しており早めの対策が必要と思われます。
道内総括	育成牛(10-12月令)	55~65	7	道内の3月中旬までの生乳生産量前年比は98.2%、累計で99.7%の実績となっております。 平成28年度について総括しますと、需要は、クラスター事業による規模拡大、メガ・ギガファームの大型
	初 妊 牛	90~100	7	導入が活発化しております。一方、資源供給においては、下期から道内生乳生産量の低下や規模拡 の道内需要も高まり資源不足となっております。1度緩んだ相場も3月の初妊牛相場では再び上昇
	経産牛	55~65	-	じております。平成29年度においても、需要と供給の大きな流れは変わらないことから、相場は堅調に 推移するものと思われます。導入予定がございましたら、早めのご連絡を頂きます様お願いいたします。

今月の表紙

今月の表紙は、「第7回酪農い きいきフォトコンテスト」(第45 回全国発表大会にて開催)で応 募頂いた作品「イヤーン」(岐阜 県大井 幸男氏撮影)です。



平成29年4月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 4月号 No.619

- ●編集·発行人 大森 一幸
- ●発行 全国酪農業協同組合連合会

〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号 TEL 03-5931-8003 http://www.zenrakuren.or.jp/

編纂後記



- ●平成29年度より、全酪連会報がリニューアル致しました。皆様に少しでも役立つ情報をお届けしていきます。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。

shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

今月のらうできまれるリー入賞作品紹介



いたらいいな。にじから生まれたにじ色の牛

丹波市立芦田小学校(西日本)3年 足立 真奈

今月の入賞作品は…

丹波市立芦田小学校(西日本)3年の足立 真奈さんの作品です。

なんとも美しいカラフルな牛さんが4頭、虹と共に描かれています、そして左手前の牛さんはお尻を可愛くフリフリしています。牛さんを愛情豊かな視点で捉えています。大人には出来ない自由な発想の楽しい作品です。



第46回



主催 全国酪農青年女性会議/全国酪農業協同組合連合会

平成29年

13 → 14 **a**

日 程

7月13日 🕏

13:00~13:50 開会式

13:55~16:15 酪農経営発表

16:15~16:25 らくのうこどもギャラリー表彰式

16:40~18:15 酪農意見・体験発表

19:20~21:30 懇親会

7月14日 🖨

09:00~09:10 いきいきフォトコンテスト表彰

09:10~09:35 酪農経営発表質疑応答

09:35~10:00 酪農意見・体験発表質疑応答

10:15~11:35 審査講評・表彰式

11:40~11:50 閉会式

大会参加費

13,000円 (大会・懇親会まで)

※宿泊につきましては、各地域会議事務局にお問い合わせください。

大会会場・アクセス

◆ 会場・宿泊

「札幌ビューホテル大通公園」 旧 東京ドームホテル 札幌

〒060-0042 札幌市中央区大通西8丁目 Tel 011-261-0111

◆ アクセス



●鉄道の場合 地下鉄: 南北線「さっぽろ駅」より 1 駅 「大通駅」下車、1番出口より

徒歩:JR札幌駅 「西改札口」 より、「札幌駅前通地下歩行空間」を 経由、地下鉄 「大通駅」 まで約15分。 地下鉄 「大通駅」 1番出口

道央自動車道〜札樽道「札幌北 IC」から「国道 5 号」経由で4 km

・ 飛行機でお越しの場合 電車: JR 千歳線「新千歳空港駅」より快速電車で約40分。 「札幌駅」下車 バス:空港連絡バス「新千歳空港」より約 90 分。 「東京ドームホテル 札幌前」 下車

全国酪農青年女性会議 〒108-0014 東京都港区芝 4-17-5 大会事務局 全酪連指導·企画部内 / TEL. 03-5931-8003



in

0 0